

TOPICS

●第8回 全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会

運転技術や指導力のさらなる向上をめざして  
83校177名の教習指導員が参加

1  
日目



四輪部門「フィギア」



四輪部門「縦列駐車・車庫入れ」



四輪部門「ブレーキング回避」



二輪部門「パイロンスラローム」



二輪部門「コーススラローム」



二輪部門「ブレーキング」

2  
日目



四輪部門「コーススラローム」



「筆記レポート」



二輪部門「一本橋」



全国26都府県  
83校の教習所  
から177名の  
選手が参加

6月2日、3日の両日、鈴鹿サーキット交通教育センター（三重県鈴鹿市）にて、「第8回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」が開催された。

この大会は、全国自動車教習所教習指導員の自己研鑽への動機付けや、他の教習所との交流の場を提供することを目的に、2001年より毎年開催されている。開会式では、大会会長を務める曾田浩・本田技研工業（株）取締役・安全運転普及本部本部長が「地域における交通安全教育の充実が社会から求められています。今大会への参加を、皆様方の指導力向上の一環として有効活用していただきたい」と挨拶を述べた。

今年は、全国26都府県83校の教習所から177名の選手が参加。二輪部門、四輪部門に分かれ、運転技術の正確さやタイムを競う4種目の実技競技と、筆記レポートに取り組んだ。2日間、あいにくの天候であったが、参加選手のレベルの高い競技や真剣に取り組む姿に、会場に集まった観客や応援団から大きな声援が送られた。また、大会1日目の夜には懇親会が開かれ、選手同士がお互いに交流を深めた。

大会参加の経験を  
教習の現場に活かす

二輪部門で総合1位となったのは、アヤハ水口自動車教習所の林勇樹さん。林さんは今回が3回目の参加だが、初出場の時は参加している指導員が高い運転技術を持っていることに驚いたという。「自分も早くこのレベルに追いつきたいと練習を重ねました。そうした努力が、総合1位という形で実を結んでうれしい」と感想を話す。競技の中で無理をしてミスをするということは、公道であれば事故を起こしてしまうことだと林さんは考え、練習では基本に忠実に、正確さや安定さを追求したそうだ。「指導員には教習生の模範となる、ミスのない運転が求められている。こうしたことを再確認し、常に意識できるようになったことが、この大会への参加を通じて自分にプラスになっている点です。事故を防止するためには、自分自身に『ゆとり』を持って運転するこ



とが重要であることを教習の現場でも伝えていきたいと考えています」。

四輪部門の総合1位は、青森モータースクールの今井大輔さん。3回目の参加で、総合初優勝。種目別でも4種目中3種目で1位を獲得した。「自分の技術は、全国でどのくらい通用するのか試したい」と、大会に向けて朝や昼休みに練習を重ねてきたという。「普段上手く運転できても、緊張すると上手くできない。教習生の気持ちが良くわかります」と、自分が技術力を試す立場になることが、日頃の教習に役立つと話す。大会では、「全国の指導員と交流できることが、何よりも良い経験」と今井さん。



「指導力向上のため努力する姿など、全国の指導員から学ぶことがたくさんあります。技術面はもちろん、精神面でも安全運転の指導につながることをいろいろと吸収でき、自己の研鑽に役立ちます。大会に出場したことで、自分が1つ大きくなりました」と語る。

大会に挑む選手の姿から、地域における交通安全教育の充実をめざし、日頃から努力を重ねている様子を垣間見ることができる。大会運営委員長である千葉英雄・本田技研工業（株）安全運転普及本部事務局長は、閉会式の挨拶で「この大会の実技競技や筆記レポートが、指導員の皆様の指導力向上のきっかけとなるよう、今後は大会内容をさらに進化させていきたい」と語り、大会を締めくくった。

大会への期待

コアラドライブ安城自動車学校（愛知県安城市）副社長 石原聡子さん



当校は、安全を伝える自動車学校としてお客様や地域に身近な存在であること、日本で一番と評価される自動車学校になることをめざしています。自動車学校全体や一人ひとりのレベルアップのために、この大会への出場が役立つと考え、今回初めて参加しました。大会に向けて取り組むことで、個人が目標を持ってチャレンジすることにつながりますし、自分の技術レベルを認識できます。また、他の自動車学校と交流することで、技術だけでなく、インストラクターとしての意識や態度、応援を含むチームワークなどを学ぶことができました。この大会の経験や感動を持ち帰り、日本をめぐって、さらなるレベルアップにつなげたいと思います。